

ミューズ No. 41 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2019年6月

編集：安齋育郎、山根和代

イラスト：戸崎恵理子、Pegge Patten

事務局：戦争と平和の資料館ピースあいち 宮原大輔

住所：〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台2-820

Tel & Fax: 052-602-4222

第18回「平和のための博物館市民ネットワーク全国交流会」

- 日程：2019年10月26日（土）
13:00～27日（日）12:00
- 会場：国立女性教育会館
<https://www.nwec.jp/>
TEL：0493-62-6711（池袋から東武東上線
で約60分、「武蔵嵐山駅」徒歩15分）
- 宿泊：同会館一括予約（先着80名・ツ
イン、トイレ・バス付）「部屋割り」は
一任下さい。
- 27日午後「フィールドワーク」：「丸木
美術館」「中帰連平和記念館」→東上線
「鶴ヶ島駅」（16:30着・解散、池袋まで
40分）
- 参加費用やフィールドワークなど詳細
は、後程事務局から連絡があります。
- ◆申込締切り 9月15日（日）厳守
- ◆参加希望者は「氏名・所属」を明記し、
「宿泊、懇親会、フィールドワーク」参
加希望の有無を記念館迄お申し込み下
さい。（npo-kinenkan@nifty.com）
中帰連平和記念館事務局芹沢昇雄氏
のお世話になっています。

企画展紹介 リニア新幹線 →3.1独立運動100年

山梨平和ミュージアム 理事長
浅川 保

山梨平和ミュージアムでは、2018年12月
から19年5月まで、企画展「リニア新幹線
を考える」を開催中です。



erico

以下、そのねらいと展示概要です。

＜展示のねらい＞ 27年開業を目指して進められているリニア新幹線、推進側からは、楽観的でバラ色の見通しが語られる一方、専門家や市民団体からは、反対や問題点も指摘されています。山梨・日本の未来に関わるこの問題について、できるだけ科学的、かつ、市民目線から検討を加えて、企画展を開催しました。

＜展示概要＞ リニアって何？ リニア計画のあらまし リニアの問題点 消費エネルギーを考える 安全性は 採算性は 前例なき財政投融资 電磁波の人体への影響 地下水脈の分断 困難を極める残土処理 景観に及ぼす影響 騒音や日照による住民被害 談合事件の発覚 ストップ・リニア訴訟 リニアまんが訴訟（以上パネル展示）他に実物資料 参考文献等も展示

なお、山梨平和ミュージアムでは、19年6月より11月まで、企画展「3.1独立運動100年、日韓関係を考える」を行います。その展示概要は下記の通りです。

＜展示概要＞ 3.1独立運動とは—3.1運動の前史 3.1運動の概要・展開 3.1運動と女性たち・柳寛順 堤岩里事件 日本の新聞は 3.1運動をどう報じたか 3.1運動と連帯した日本人（石橋湛山 柳宗悦 浅川伯教・巧） 現在の日韓関係は一貿易と交流 徴用工問題

中帰連平和記念館

事務局 芹沢昇雄

記念館では年4回の理事会の午後に「中帰連に学ぶ会」と称した学習会を開いてい

ます。2月24日に「方正友好交流の会」理事長の大類啓善さんに講演をお願いしました。ご存じの方もいるかと思いますが、哈爾濱東方180キロの方正に、中国政府が日本人開拓団犠牲者のために建立してくれた「方正地区日本人公墓」があり、大類さんたちはその現地と交流しています。

また中帰連千葉支部が匝瑳市の妙福寺に97年7月、『中帰連碑』（謝罪碑）を建立しています。この「碑文」が判ると何処からも設置を断られ設置場所が決まりませんでした。当時この妙福寺の檀家総代をしていた篠塚良雄さん（元731少年隊員）がお寺に相談したところ受け入れられ建立されました。

私たちはお寺の藤の咲く頃の5月5日に、毎年この碑の前に集い「観藤会」と称して中帰連の皆さんを偲び、彼らの体験と想いを後世伝えることを再確認する場とし今年も16人が集いました。



境内の篠塚さんのお墓にもお参りし、庫裏で『認罪—侵略戦争、人間から鬼へ—そして人間へ』（43分）を上映後、懇親会を開き交流を深めました。

今年の「全国交流会」は10月26、27日に、私たち記念館の担当で埼玉の「国立女性

教育会館」で開催予定で詳細を検討中です。皆様との再会を楽しみにしております。

【NPO 中帰連平和記念館】

TEL&FAX : 049-236-4711 (水・土・日)

E-mail : npo-kinenkan@nifty.com

HP : <http://npo-chuukiren.jimdo.com/>

(臨時休館あり「事前連絡」お願いします)

すみだ郷土文化資料館：企画展
「東京大空襲 ー罹災者・救護者・戦争遺跡ー」

学芸員 石橋星志

墨田区立すみだ郷土文化資料館（墨田区向島2-3-5）では、2019年2月23日（土）～4月14日（日）の会期で、企画展「東京大空襲 ー罹災者・救護者・戦争遺跡ー」が開催された。

空襲遺族の「肉親はどのような最期を迎え、遺体はどこにどう処理されたのか」という疑問に答えるべく、遺体処理に従事した軍人の記録、空襲を受けながら生き延びた人々の避難の軌跡などを新たな調査に基づき展示した。防衛省防衛研究所の所蔵資料を紹介し、軍内部に空襲被害想定が存在したことを初めて明らかにした。2日の空襲で死者は13,759人と想定されており、攻撃方法なども実際とは異なるものだった。また、東京の防衛を担った東部軍の命令綴には、遺体処理命令は含まれなかったが、焼け跡の金属回収等の命令が存在した。遺体回収に従事した兵士の手記などからは、東部軍命令で東部憲兵隊司令部の指揮下に遺体回収に従事を命令されたとあった。ただ、囚人や

在郷軍人、動員学徒も従事しており、全容解明は今後の課題である。その他、区内の戦争遺跡と空襲関係の戦争遺跡の紹介などを行った。概要紹介のニュースは残部があるが、図録はない。また、同館では通年、空襲体験画の展示を行っている。

アクティブ・ミュージアム
「女たちの戦争と平和資料館」(wam)

名誉館長 池田恵理子

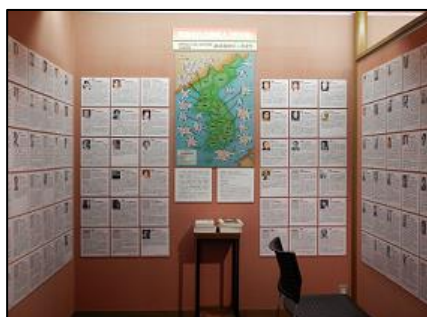
wam では朝鮮の3.1独立宣言から100年を迎えたこの3月1日から、第16回特別展『朝鮮人「慰安婦」の声をきくー日本の植民地支配責任を果たすために』を始めました。東アジアに生きる私たちは、日本の植民地支配と侵略戦争の歴史と無縁ではありえないし、朝鮮が解放されてからの南北分断、朝鮮戦争、軍事独裁政権下での人権侵害にも深く関わっています。ところが、日韓関係の悪化に伴って日本人の「嫌韓」や差別意識、無関心が強まっていように感じます。

wam も参加している「慰安婦」支援のネットワークでは、毎月第3水曜日に新宿駅西口で「慰安婦」問題の解決を訴える街頭行動を行っていますが、チラシを受け取る人は少なく、『慰安婦』問題？もう解決してるんじゃないの？』という冷たい反応に出会うこともしばしばです。これは、メディアを巻き込んだ日本政府がこの20年余り、「慰安婦」問題に関して、「強制連行の証拠はない」「法的責任はない」「日韓合意」で一件落着」と世論誘導を行ってきた忌々しい結果だと思います。自国の戦争責任にも植民地支配

責任にも向き合って来なかった戦後 74 年—これを変革していくのは至難の業ですが、知ってしまった者たちが動き出さないわけにはいきません。

今回の特別展では、第 1 展示室の壁全体を使って、南北朝鮮の「慰安婦」被害者 183 人の生い立ちから被害実態と戦後の暮らしを一人 500 字ほどにまとめて展示しています。また、南北両政府の協力を得て、政府に登録された 454 人の女性たちの出生地または連行地と連行先のマップも作りました。第 2 展示室には日本の朝鮮侵略と植民地支配から現在までの出来事を伝える大型の年表、朝鮮総督府支配下での朝鮮女性に対する性管理の詳細、韓国の民主化と 1990 年代から始まった被害女性たちの闘い…などがあります。

明治維新 150 年祝賀から、新元号と「天皇代替わり」に浮かれ続けた(正確に言えば、これらを政治利用する安倍政権に踊らされた)日本社会で、それとは真逆のメッセージを発する特別展です。だからこそ…でしょうか、来館者の手応えには確かなものを感じます。海外からの研究者や留学生、メディアも目立ちます。年間を通して、セミナーや講演会、上映会も企画しています。是非、お立ち寄りください。



ただ今開催中の第 16 回特別展『朝鮮人「慰安婦」の声をきく—日本の植民地支配責任を果たすために』では、公開証言をした南北朝鮮の「慰安婦」被害者 183 人のパネルを展示し

ている。

ピースあいち

沖縄展「沖縄戦と子どもたち」(2019/5/21～7/6)

今年の沖縄展は「子ども」に焦点を当て、対馬丸事件の悲劇や、鉄血勤皇隊やひめゆり学徒隊のように 10 代の若者たちが戦争に動員されていった実態、ガマ(地下壕)での暮らしや集団自決による子どもたちの悲惨な状況などを紹介します。また、これまで詳細には取り上げてこなかった「護郷隊」や収容所での生活、戦争孤児についても展示をします。

沖縄展「沖縄戦と子どもたち」関連イベントとして、講演と朗読のつどいを開催します。

◆講演:「子どもたちの視た沖縄戦」6月22日(土)午後1時30分～

お話 阪井 芳貴さん(名古屋市立大学教授)

沖縄戦当時子ども(幼児・学童・生徒)だった人たちが後に回想した戦(いくさ)の記録から見える沖縄戦の諸相について検証します。

◆朗読: ピースあいち朗読の会「オリーブ」

2018年6月23日 沖縄慰霊の日のスピーチ 相良倫子さんの平和の詩「生きる」

開催場所 1階交流のひろば

◆辺野古写真展「辺野古・高江のたたかい～本土では見えないほんとうの姿～」5/21-7/6

県民投票で辺野古新基地建設反対の民意が明確に示されたにもかかわらず、建設工事

が強行されている沖縄。現地の人々が撮った写真を通して、辺野古・高江の今の姿を改めて見つめます。



(ホームページより)

国際平和ミュージアム

専門委員 山根和代

2019 年度春季特別展 「よみがえる沖縄 1935」

アジア太平洋戦争末期、過酷な戦火にさらされた沖縄。その 10 年前、沖縄には人々の平和な暮らしがありました。にぎわう那覇の市場、のどかな軌道馬車、糸満の漁師たちが暮らす一方で忍び寄る戦争の影。朝日新聞の記者が 1935 年に撮影し、「海洋ニッポン」という記事に掲載した写真には、貴重な戦前の沖縄の営みが写し取られていました。約 80 年を経て大阪本社で見つかった 277 コマのネガから、人工知能 (AI) 技術と住民の記憶によりカラー化した写真を含む厳選した約 100 点の写真に、朝日新聞・沖

縄タイムスの共同取材時の解説を加え、「1935 年の沖縄」を描き出す写真展を開催します。

本展は、2017 年に日本新聞博物館で開催された展覧会の関西巡回ですが、立命館大学国際平和ミュージアムでの開催にあたり、当館所蔵の沖縄関連資料も展示します。

沖縄戦で一変した沖縄。戦前の沖縄の生活の中にも戦争の影響がひそみ、その後の沖縄と日本全体がたどった道とを合わせて考えることで、1935 年以降、現代にも繋がる沖縄をめぐる問題に迫ります。

会期 2019 年 4 月 13 日～6 月 29 日

主催 立命館大学国際平和ミュージアム・朝日新聞社・沖縄タイムス社

協力 東京大学大学院情報学環・渡邊英徳研究室、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭、フレームマン

(ホームページより)



ピースおおさか訴訟 大阪府市の敗訴確定

高裁で松井知事吉村市長、最高裁で松井市長吉村知事が負ける～相澤冬樹 | 大阪日日新聞論説委員・記者（元NHK記者）

大阪の平和展示施設「ピースおおさか」の情報公開をめぐる裁判で、最高裁判所は24日付けで、大阪府と大阪市の上告を退ける決定を出した。原告男性への賠償を大阪府と大阪市に命じた大阪高裁判決が確定した。

ピースおおさかは、大阪府と大阪市が出資する財団が大阪城公園で運営する平和展示施設。大阪大空襲の展示などのほか、旧日本軍の加害行為とされる内容も展示していた。しかし大阪市長が橋下徹氏、大阪府知事が松井一郎氏と、大阪維新の会の2人変わった後、展示が「自虐的だ」などとして見直しの作業が進められ、2015年4月に全面リニューアルされて再オープンした。

この見直しの過程で、設置理念が骨抜きにされると懸念する市民らの団体「ピースおおさかの危機を考える連絡会」の会員、竹本昇さん(69)が、関連する公文書の情報公開を請求した。しかし「リニューアルに向けた業務に支障をきたす」などの理由で公開を拒否される。竹本さんは異議を申し立てたが、本来諮られるはずの審査会も開かれないままリニューアルオープンを迎えた。

「歴史認識に関わることだからこそ情報公開を」高裁で逆転判決

竹本さんは、知る権利を侵害され精神的苦痛を受けたとして、大阪府と大阪市などを相手取って損害賠償を求める裁判を起こした。一審の大阪地方裁判所では訴えをす

べて退けられたが、二審の大阪高等裁判所は「様々な意見がある歴史認識に関わることだからこそ情報公開すべき」と判断。一審判決を取り消し、大阪府と大阪市に対し、竹本さんにそれぞれ5万円の慰謝料を支払うよう命じる逆転判決を言い渡した。

府と市はこれを不服として上告していたが、最高裁判所は24日付けで、「上告の理由がない」として上告を退ける決定を出した。これにより大阪府と大阪市が情報公開しなかったことは違法だとする大阪高裁の判決が確定した。

原告の竹本さんは次のように話す。

「この裁判で、展示見直しに対する橋下氏と松井氏の不当な干渉が明らかになりました。情報非公開の本当の理由は、リニューアルの目的が加害展示撤去だということを市民に知られないためでした。不当な干渉によってなされたピースおおさかのリニューアルは正当たり得ません。被害と加害の両面から戦争の実相に迫るという設置理念に則ったピースおおさかを取り戻すために、これからも展示の改善を求めていきます」「真実を国民に知らせずに戦争。同じことを繰り返してはならない」

原告の代理人は大前治弁護士ただ1人。

「勝訴」決定について次のように述べた。「大阪府と大阪市が情報公開条例に違反していたこと、大阪高裁が『様々な意見がある歴史認識に関わることだからこそ情報公開すべき』と断じた判決が確定したことに意義があります。竹本さんに情報が隠されたことは全ての市民に情報が隠されたことに等しいんです。74年前の戦争は『国民に真実を知らせないこと』を原動力として進められました。同じことを繰り返してはいけ

ません」

<https://news.yahoo.co.jp/byline/aizawa-fuyuki/20190527-00127522/> より

平和資料館・草の家

副館長 岡村啓佐

「加害・被害・抵抗・創造」の4本柱で次世代へ

平和資料館・草の家は今年11月に創立30周年を迎えます。総会では、創立時から大切にしてきた「加害・被害・抵抗」の3本柱に「創造」を加え、未来に向かって新たな前進を図るスタートの年にしていくことを確認しました。主な取り組みでは、①「戦争する国」づくりを許さず軍事力に頼らない安全保障へ。②沖縄の米軍基地反対運動と連帯し、平和で豊かな沖縄・日本を。③. 憲法改悪を許さず、憲法を暮らしの中に。④「核兵器のない世界」の実現めざして。⑤原発をなくし福島を繰り返さない活動。⑥日本近現代史の加害・被害・抵抗の歴史を学び、東アジアの人々と共有する歴史像へ。⑦戦争遺跡の保存、整備、活用。などなど、他団体と共同して旺盛に取り組んでいきます。

また、昨年の楨村浩没後80周年記念事業を継続し、楨村浩の生誕地が調査で確定したことから、募金を募り生誕碑（プレート）設置に取り組みます。

そして11月に、「草の家創立30周年記念」を迎えます。11月24日(日)午後、韓国から李相姫・金英丸両氏を迎え「日本と朝鮮半島の過去・現在・未来」と題した記

念講演と、レセプションを成功させることを決めました。



岡まさはる記念長崎平和資料館

事務局長 崎山昇

2018年11月23日、第16回総会を開催しましたが、総会の前に「中国に学ぶ旅」の報告会を行い、派遣した学生2人が旅の感想などを報告しました。12月11日から17日にかけて、第16回《日中友好・希望の翼》・第18次岡まさはる記念長崎平和資料館友好訪中団を派遣しました。私と《日中友好・希望の翼》として応募した大学生2人が、第34次銘心会南京スタディーツアーに合流させていただき、南京・瀋陽・撫順・大連・金州を訪れました。2019年3月12日から17日にかけて、731部隊・100部隊展実行委員会などの協力を得、「裁かれなかった戦争犯罪 731部隊・100部隊パネル展」を資料館で開催し、「長崎大学と731部隊」についても展示しました。6日間という短い期間でした

が、約80人が見学しました。4月7日には「第2回高實康稔さんを偲ぶ会」を資料館で行いました。約30人が参加し、妻高實絢子さんや韓国から小説「軍艦島」の著者・韓水山さんとその妻・李聖順さんを迎えるの会となりました。高實前理事長が代表を務めていた「長崎在日朝鮮人の人権を守る会」が行ってきた朝鮮人被爆者・朝鮮人強制連行調査について園田理事長が報告し、その後映像で生前の高實前理事長の足跡を振り返り、参加者の皆さんと意見交換を行いました。



ひめゆり平和祈念資料館

学芸課 前泊克美

2019年6月23日、ひめゆり平和祈念資料館は開館30周年を迎えます。

開館以来、ひめゆり学徒隊生存者である「証言員」が中心になって、館運営や戦争体験を伝える活動を担ってきました。2000年代はじめ頃から、次世代継承に取り組みはじめ、昨年4月には、初めての非体験者の館長が就任し、現在は戦後世代の職員たちがその仕事を受け継いでいます。

今年は、「ひめゆり、新しい世代へ」を

テーマに、30周年記念事業やイベントなどを予定しています。2月には初めて資料館を紹介する映像を制作し、YouTubeで公開しました。

<https://www.youtube.com/watch?v=tQMTA5PucBs>

視聴はこちらのQR CODEから



30周年記念バナーの設置、記念ロゴの制作も行い、4月6日には沖縄戦で亡くなったひめゆり学徒や教師のご遺族を対象とした戦跡フィールドワークを実施しました。

今後は、6月29日にひめゆりピースホールでのイベント「ドキュメンタリー上映&トーク」を開催。2020年2月、一般の方対象で戦跡フィールドワークを行い、3月には30周年記念誌の発刊予定です。さらに、2020年7月、16年ぶりにリニューアルを行います。

「戦争からさらに遠くなった世代」に向けて、ひめゆり学徒隊の体験をどのように伝えていくか、試行錯誤しながらリニューアルの作業を進めています。

そのほか、2019年1月、2回目の「沖縄県通訳案内士スキルアップ研修」学習会実施、3月には「ひめゆりガイド講習会」と琉球新報社・沖縄タイムス社の新入社員研修の受入を行いました。両社の新入社員受入は初めてのことです。報道を担っていく若い世代にも、沖縄戦やひめゆり学徒隊について

ひ知って頂きたいということをきっかけに企画・実現しました。新入社員に限らず、若手や中堅の社員が参加し、沖縄戦についての認識を深める場となりました。

Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102

HP <http://www.himeyuri.or.jp>

FB

<https://www.facebook.com/HIMEY>

UIRI. PEACE. MUSEUM/

「ビキニ事件」から65年—被災船は第五福竜丸だけではなかった

戦後史の闇の中に封印されているものの中に「ビキニ水爆実験」があります。米ソ冷戦構造の生み出したアメリカの凶行は日本のマグロ船1000隻(延べ)・乗組員1万数千人に死の灰を浴びせました。しかし、その被害は「第五福竜丸事件」として矮小化され、操業の中心をなしていた高知県のマグロ漁船員たちの存在はおよそ知られることはありませんでした。

1985年、高知県内の高校生サークルが被害者の生の声を聞きとり、事件の実相を可視化しましたが、日本政府は「資料は残っていないし、新たに調査は困難」と答弁。その後も、国は「1955年の日米交換文書により解決済み」と回答していました。ところが2013年NHK広島放送局がアメリカの公文書館で被災船のデータを発見。隠しきれなくなった政府は2014年に開示に追い込まれました。事件から60年後の事です。

証言&写真集『NO NUKES』は、「ビキニ事件」は第五福竜丸だけではなかったこと、事件はまだ終わっていないし、被災者の救済が急がれることを訴えます。沈黙を強要さ

れていた漁船員は静かに苦悩に満ちた表情で、恐怖を語ります。本著はその言葉を日本文のみならず英文併記で世界へ届けます。ビキニ被害者の声が英文で発信されるのは初めて。死の灰を「雪だ」と丸めて食べた乗組員。若くして次々とがんの病魔に倒れる漁船員。収録50人のダブルトーンで仕上げられた写真の表情は鬼気として「核なき世界の平和」を求めています。

女優の吉永小百合さんが帯文に「世界中の人たちに見て頂きたい作品です。核兵器の廃絶を実現させるためにも」とメッセージをいただきました。また、川崎哲さん(ピースボート共同代表・ICAN国際運営委員)、尾崎高知県知事、山下正寿さん(太平洋核被災支援センター事務局長)もメッセージを寄せています。



写真集『NO NUKES』

定価 2000 円 (税別)・モノク

ロ写真・A4 変形判・148 頁

【注文先】

平和資料館・草の家

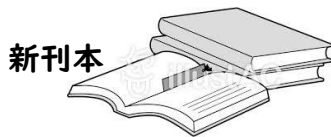
〒780-0861 高知市升形 9-

11

TEL : 088-875-1275



「癒されて」 “Comforted” 2019
By Pegge Patten



新刊本

安斎育郎・普天間朝佳
シリーズ戦争「語りつごう沖縄」

(新日本出版社)

全5巻の刊行計画で、すでに第1～第3巻まで発刊されていた戦争シリーズの沖縄本の第4巻・第5巻が発刊されました。



第4巻は安斎育郎・普天基地にゆれる島

沖縄の米軍基地の実態を具体的な事件やデータに基づいて描いています。小学校・中学校の図書館を念頭に置いて書かれた本ですが、大人が読んでも読みごたえがある本になっていると思います。



第5巻は沖縄の平和関連の博物館・資料館・モニュメントを紹介したもので、魂魄の塔、健児の塔、韓国人慰霊の塔、都道府県慰霊の塔、平和の礎などに加えて、沖縄県平和祈念資料館、沖縄平和祈念堂、ひめゆり平和資料館、対馬丸記念館、ハンセン資料館ヌチドゥタカラの家、不屈館、沖縄愛楽園交流会館、佐喜眞美術館、南風原文化センター、八重山平和祈念館、道の駅かでな、沖縄国際大学米軍ヘリ墜落現場などが広く紹介されています。

著者は、学校図書館にご推薦頂くことを望んでいます。

投稿大歓迎

- ◆ 字数：500字を目安に
- ◆ 願わくは写真を1～2枚
- ◆ 期限：随時受け付けます

〈原稿送り先〉

編集委員へ

musejapankyoto@gmail.com

